

---

# ネギま！に転生？ワロスwww

つくね

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

ネギま！に転生？ワロス~~~~~

### 【ZPDF】

Z8016M

### 【作者名】

つくね

### 【あらすじ】

俺は転生した、でも二ートします~~~~~あつ転生した場所はネギま！で木乃香の兄だよ、でも二ートします~~~~~チートだよ、最強だよ、でも二ートだよ~~~~~そんな主人公ががんばるお話~~~~~

www

## プロローグ www(前書き)

頑張つて完結を目指します

プロローグ www

まずめますて www

俺よくわからないまま死んじゃってそしたら神様が来て「お前面白  
いから転生ok? wwwてかさせるwww」って言つてきたか  
ら「ok www把握www」てな訳で転生する事になつたwww

あつちなみに俺チートwww

だつて魔力と気は努力しだいでいくらでも増えるし、無限の剣製貢  
えたし、テイルズの技使えるらしいし・・・・・フヒヒwwwチー  
トwww

そして転生する世界はネギま!・・・・これについては神様に決  
められた、なんでも「茶々丸サイコー www」だかららしい。俺  
主なキャラの名前しかしないのに

そして俺は転生した

1話 神鳴流とかwww(前書き)

短いです

## 1話 神鳴流とかwww

「一ハオwww転生した主人公ですwww

名前が決まりました。近衛秋です

もうわかる人が居るかも知れないけど近衛木乃香のにいーにいーになりますwww

コンコン

俺の部屋のドアを叩く音が

「お兄ちゃん、ここのあけてやー

「木乃香か、開いてるから入って来い

「わかつたえー

ガチャガチャガチャ

「ごめんなさいwww転生してからずっと二ートだから基本鍵掛かってんだったwww

生まれて3年しかたつてないけどwww

「・・・・お兄ちゃん、はよあけて?」

ドアの向いから2才と思えない程の殺気が…

「だか断るー」

「…………」

それから木乃香愛用のハンマーでドアが破壊されていった

「お兄ちゃん、はよあけなドアのない一年ん過じる事になるだ

またドンドンヒドアが破壊されていく

「木乃香待つて！ホントに待つ、つてギヤアアアアアー！」

ドアが壊されきてドアの隙間から木乃香の田が見えてきた・・・  
・つか木乃香が光つてる~~~~~

「お～に～い～ちゃん～はよ開けて～」

「わかつた！わかつたからそれ以上ドアを壊さないでーあと木乃香  
めっちゃ怖い！」

根気負けしちゃいました

「も～はよ開けんからあかんのやで？」

結局ドアは半壊してしまった

「どうで木乃香何しに来た？」

「えつとな、一緒に遊ぼ思つてな？」

いや、首を傾げられても

「やだ、俺はこれからゲームする

そつまつてアヒアでゲームを始めた

「…………えいっ」

可愛こひこしそとまつまひひこハンマーでアヒアの画面を破壊された

「ギヤアアアアア……アヒアー、|画面ー、アヒアー、アヒアー、テータアアアア

……」

「せわ～急に云ふ

「シココと笑顔です

「…………何をしそうか？」

とにかく木乃香をこの部屋から追に出さなければ

「やな、お兄ちゃん何した「ゲームがしたいです」ん～そやー。  
はねつきじょー」

俺の意見は無視なのですね

庭

「お兄ちゃん！」「ええ・・・はーー！」

羽がボーンと飛んできたので

「ジャックナイフ！」

トーナメントの技をやってしまった

「キャッ、お兄ちゃん。ビードちゃんな技覚えてきたんや」

シシ「お姉ちゃん」

と机のかやつぱり転生したからかな？体が軽いや

「木乃香、秋、楽しそうだね」

お父様襲来！

「あつお父様やー」

トテトテと父さんの方に走つて行つた

「どうたの？仕事は？」

「今少し時間があいたから少しね？」

さすが！親の鏡だね！・・・・・・でも俺は見逃しません、此処に来た一番の目的は此処に居る巫女さんが担当だつて事を！

「ところで秋、さつきのやの動き」

「ん？それが？」

「いや、別になにも（やはり私の息子か・・・・できれば普通の子供として育てたいのですが・・・・）」

父さんが何かを考え始めた

「・・・・秋、少し来なさい」

「・・・・わたす何かしたがうか？」

所変わつて父さんの部屋に来た

「・・・秋、今から言つ事は眞実です」

いつになく真剣だ

「・・・はひｗｗｗｗｗ」

いつものように不眞面目だおｗｗｗ

「・・・この世界には魔法が有ります、そして秋には魔力、氣、  
身体能力、共に普通の人人の倍あります」

はい、私がそうしたんさｗｗｗｗｗ

「ホントは知らずに生きてほしかつたのですが、しかし秋の身体能  
力は異常です。だから秋には知つてほしい」

いらぬ心配をかけたな、父さん・・・・だから始めつから知  
つてんだつてｗｗｗｗｗ

「秋、お前に神鳴流を継いで欲しい」

「（正直だるい・・・・待てよ俺が神鳴流を継げば、まあ確かに今はだるいかもしねいけど！けどだよ？師範くらいになれば生徒を少し見てるだけで金が入つてウハウハ人生突入！・・・ハハッ  
俺勝ち組ｗｗｗｗｗ）」

「父さん、俺継ぐよ」

立ち上がりながら言った

「さうか、ホントに済まないな・・・明日から道場に来てくれ

「あい、（人生捕獲計画 WWWWW）」

夜

「・・・・・ 寒い」

ドアが壊れたせいで隙間風がバンバンに入ってくる

1話 神鳴流とかwww（後書き）

主人公は神鳴流を継ぐ事にwww

2話 刹那 WWW(前書き)

なかなか長く書けねえ(

神鳴流始めて3年たちました

「フヒヒwwwwwwほぼ覚えたwwwwww」

やつて3年たつた今、神鳴流のほとんどの技を覚えた。父さんが言うに「まさか私の息子がバグキャラだったとは」、とか言われてやんのwww俺www

あと暇だからテイルズの技やつたりしてるけど・・・

「フヒヒwwwwwwほぼ把握wwwwww」

こつちもかなりできたwwwさすが俺www

ちなみに基本俺の武器はテイルズのロイドが使ってたマテリアルブレードwww最初から最強武器使つとかwww

「フヒヒwwwwwwあつ！Amazonから荷物届いてるかな」

今もニート続けてますwwwそれで最近、神鳴流とニートの行き来で服を着替えるのが面倒臭いので一日中ジャージ着てますwww緑色のwww

「お兄ちや～ん、今暇？」

おふつーまさかの木乃香登場！

「今から「一ノート」なるから暇じやな「暇やな、なら遊ぼかー」木乃  
香の反抗期　ｗｗｗ

やだ、今日は部屋に帰つて「一ノート」になるつて決めたんだから

「（だが部屋に籠つてもまたドアを破壊されるのは困る・・・  
・・・逃げよ　ｗｗｗ　≤）」

「なああ～お兄ちや「わいばじやー」あつ・・・逃げよつた」

よくわからな所の森

「・・・読んど字の如く・・・迷つた　ｗｗ

いや、ね？最初は木乃香から逃げるためだつたけど途中で速く走れ  
る自分に感動して走り回つてたら・・・迷つた　ｗｗ

「一ノートが調子に乗ると「つなるのか・・・フヒヒ　ｗｗ・・・  
・ビシよ」

真剣に考えたらヤバくね？6才の子供が森に迷つとか

「ん~・・・・・・ん? 女にや の子?」

しばらく歩いていると女の子が木にもたれかけながら寝ていた

「この子も迷子か?・・・・・・どじょ・・・・・・ほつとく・・・・・・待  
てよ俺、俺はいつから鬼畜になつた・・・・・起きるまで待つか」

待つてみる事にした

SeId刹那

「んつ・・・・・寝てたんかウチ・・・・ん? 誰やろ?」

なんで私が此処で寝てたかと言つと、私は鳥族と人間のハーフでそ  
の両親ももう死んじやつて里で一人で暮らしてたけどやつぱり鳥族  
とのハーフって事で追い出されで・・・

「・・・・それより、なんなんやろ?この子?」

私より一つくらい大きいつと思つ・・・・・でかなんでジャージ?

「・・・・・・ん?、ああ~寝てたのか?おつ一起きてんじやん!」

「あつあの、だ、誰なん?」

「えつと俺は近衛秋、秋でもなんでもいいぞ、てかお前は?」

「せつ 桜咲刹那」

「（じつかで聞いた名前だな）……そつか、じゅあ刹那は何で此処で寝てたんだ？」

「…………、里を追に出されて……いく場所ないねん……」

「この翼があるから……」

「（重いなおい）…………わつか…………なら俺の所に来るか？」

「え？…………あかん、うひ…………迷惑やし」

結局は翼がばれたらまた捨てられる

「…………來い」

「へ？」

「だから、來い。お前がなんだって受け入れてやるから」

やんだかその一言がすいへうれし

「…………なつなら…………これ見てもそんな事…………三ツある？」

「うせ禁句とおれひこるひの翼を出した

「…………」

やつぱり・・・・・

「まあ、あれだ・・・・・・・すつげー綺麗だけど?」

え?

「き・・・・『気持ち悪くない・・・・ん?』

「俺は・・・・・好きだけど?」

ああこんなの俺らしくねえ~~~~~つと最後に言いながら後ろを向いてしまった・・・・・・まあそのおかげで

「・・・・ヒック・・・・ヒ・・・・グス」

うちが泣いてる顔を見られないですんだけど

恥ずかしい・・・・・まだ名前しか知らない男の子の前で泣いて

「なあ・・・・やつやの話、まだ聞こへひへ?」

「…………なら、帰ろつか？」

Side秋

何とか家に着いた…………けど

「…………秋、その子は？」

父さんに見つかったwww

「ああ～…………飼つていい？」

「捨てられた子犬か…………しかし…………また」

多分刹那の翼の事なんだろ／＼

「あ…………あの、うち何でもします！だから…………」

父さんに頭を下げるwww

「…………ちやんと面倒見るから…………散歩もあるから」

「だから捨てられた子犬！…………まあいいでしょ／＼

おお、おぐもりぐるとは

てな訳で刹那を家で飼つ事になつた~~~~~

### 四室

「…………あつクーラードリンク忘れた…………」

「はい、今モンハンやつてます。たまに有りますよね?砂漠でクーラードリンク忘れる事

「あれ?ドア半分ない」

「サーセン~~~~まだドア直つてません~~~~三年たつたのに~~~

「つか何しに来た?刹那」

「え?あ・・・・あの、・・・・ひ・・・一人じゃ・・・・淋しくて・・・」

「・・・・うちが・・・淋しくて・・・」

とりあえず早くディアボロス倒さねえ」と

「・・・・う・・・・淋しくて・・・」

森で一人で寝てたんだから大丈夫でそ？

「・・・・・一緒に寝うつ？」

「はい！」

と言つて俺の布団の中に入つてきた

「・・・・・・・グハツ・・」

ちくそり、友達に尻尾の避けかた教わつとけば

2話 刹那 WWW(後書き)

刹那の口調わかんね

3話 誘拐されますwww（前書き）

フヒヒwwwブルジョアだからそつなるwww

### 3話 誘拐されますwww

刹那を拾つて半年たつた

「せつちゃん、いくえ～」

「う、うん。わかつたよこのちゃん」

木乃香達がケマリで遊んでますwwwお前らいつの時代の人だよwww

あっちなみに俺は最近神鳴流とかやつてないwwwしかたないじやないか！だつて一ートだものwwwwww

「・・・でか木乃香」

「なんえ～」

「そろそろ縄解いてくんろwwwオシッコ漏れそwwwwww

実はさつきから縄でぐるぐる巻きにされて動けませんwwwwww

「そんな事言つて逃げるつもりやん？」

「当たり前wwwつてイタタタチwwwイタタタチつてwwwwww」

当たり前つて言つたあと蹴りのラッシュwwwお前ホントに5  
才かよwww

「せつちゃん助けてwwwマジ痛いwww」

「痛そうにみえへんのやけど？」

ちよ w w しかたないじやん w w w w 僕 そう 言う 人 なんだから w w w

蹴りのラッシュが終わつたのは夕方だつた

「皆、少し集まつて

夕飯を食べた後父さんに呼ばれた

「少し用事で西・・・東京に行つて来るからその間留守番をしてくれないか？」

「す、」い楽しそうだね」

だつて家に親が居ない＝俺二ートになり放題WWWあつ俺たい  
てい二ートだつたWWWWWW

夜

サイド よし、朝までなのはシリーズ全部みよ

# お兄ちゃん 五戸蠅し

www そう木乃香が言った後俺は“何か”を飲まされ…………眠った

Side 刹那

「…………このちゃん、秋君に何飲ましたん？」

ん？ ただの睡眠薬や、お父様がくれたんやで」

・・・・それは犯罪やで？このせやん

「でも今だからとなし」

じのたんに繋ねてみた

一  
ん  
寝  
よ  
か

そう言って秋君が寝てる（睡眠薬により寝てる）布団に入つていった

「え？ ・・」「

うちも布団に入つた

### 誘拐犯

「兄貴、ホントに大丈夫なんですか？此処めちゃくちゃデカイじやないですか？」

「大丈夫だ、今何故か知らないが此処の警備員やらなんやらはどこか行つて居ない。あと此処に居るのは此処のガキと巫女さんだけだ、それによつちは10人も居るんだ負けやしねえ～」

そう言つて子供が居るであろう場所を手指した

「兄貴！子供居ましたぜ」

「おお……なんでドア半壊してんだ？」

確かにドアの奥に子供が三人居るがドアが半壊してゐる

「……まあいい、連れてくぞ」

とりあえず三人共アジトに連れて行く事にした

アジト ( hide 刹那 )

「…………んつ…………ふあ～…………よお寝た…………え?何此処?」

「どこか知らないがロープで体の身動きを封じられて動けない…………あヒドリマの不良がいそなうな場所だ

「どなこじょ…………一…………」のちやん!何で面るん?」

隣を見た「ひこのちやんも同じロープで縛られていた

「ん?…………ああ~はひちやんどうないしたん?つて何でひづか動けんの?」

「じりんナビ…………秋君もあるみたいやけび…………」

「グア~!グオ~!スイース (笑) グオ~!」

「…………寝てるな、」のちやん

「うそ、だつて睡眠薬だもの。」のちやん

私は「」のちやんが怖い

ガチャ

近くのドアが開いた

「…………あ？…………ちつ、おい！ガキが一人起きてるぞ」

男の人が入つて来た後にそう言つてどこかに行つた

「「」のちやん…………はよ逃げな」

「うちは「」のちやんに質問した…………けど

「…………えい！あつ…………失敗や…………えい！…………また失敗や」

ポツケに入つてる睡眠薬を飲もうとしてるがロープで縛られているから口元にまで手を持つていけないから投げて飲もうとしていた

「（…………現実逃避なんか？そんなに今の状況を見たくないんか…………）「」のちやん、現実を見よ？」

「「」のちやんか？」

目が泳いでる泳いでる

「…………そや、お兄ちゃん！お兄ちゃん起「」やー！」

「なんで？秋君起「」してもかわらへんやん？」

失礼やけど秋君起にしてもなんも変わらんと思つたやけど

「えつとな? お兄ちゃんつて以外と強いんやで」

・・・・「めんね?」のちゃん、信用してない訳じゃないけど秋君  
が強いとは思へん。だつて秋君一日中部屋でゲームしてるかひな  
たぼつこしてるか下痢になつてる所しか見た事ないから

「信じられへん」

「めんね?のちゃん

「大丈夫やつて」

それでもこのちゃんは笑顔や

ガチャ

またドアが開いた

「ああ～・・・・起きてるな・・・・・・おい! ガキども、騒ぐん  
じやねえ?」

屈強な男の人達が6人くらい入つてきた

「・・・・あつ秋君、起きて」

でも返事をしてくれない

「おこ、こつらの親に電話したのか?」

「したんだが、かからなくて」

「どないしょ、男の人達がイライラしてきてる

「ああ、秋君「五月蠅いぞ…さつきから秋君、秋君つて！」ひつ」

怖いよ

「…………はつ！木乃香！お前は俺に何を飲ませ…………此処どー？あと俺なんでロープで縛られてんの？www俺はびっちかって言つとうだぞwww」

やつと起きた

「秋君、つちら捕まつたみたいなんや」

まだ状況がわからない秋君に状況を説明した

「フヒヒwww何？俺捕まつたのwwwブルジョアも大変だあー  
wwwwww」

いつもと変わらない

「フヒヒwwwあつ木乃香は？」

そや、やつさから喋つてへんけど

「…………すう～…………すう～…………」

「…………飲んだんやね？睡眠薬…………卑怯者

「寝てるwww最悪だおwww「五月蠅いんだよー」 サーセンwww」

ほんまに変わらへん……でも何だか落ち着いてきた

「ああ～もつ、めんぢいな。なあ！ガキの男の方殺していいか？」  
え？

「べつにいいんぢゃね？男の方が居なくても一人居るんだし」「どうぢないしよ、秋君が殺されてしまつ

「ちょwww俺」へろ～さ～れ～るwww

「そんな事言つどりんと真剣に考えな……」  
いつ殺されて

そんなんいややで……うち

「おい、お前名前は？」

なんで名前？

「えつと……桜咲刹那」

え？ なんでうちの名前

「そつか、なら大丈夫だ……バイバイ」

そう言って銃口を秋君に向けて撃つた

3話 誘拐されますwww（後書き）

続きを読む

4話 学園生活 WWW(前書き)

続きです

S.i.d e秋

「ひつよつwww俺起きたらピーンチwww

「（・・・ま、どうにかなるけどねwwwwww）」

だつて俺チートだもんwww神鳴流とかテイルズとか出来るもんwww  
武器は無限の剣製あるからあと少しだけど魔法使える・・・  
フヒヒwwwスイーツ（笑）

「おい、お前名前は？」

何故に？・・・ああ俺が近衛かそうじやないかを知りたいんだwww

「あ～・・・桜咲刹那」

さあ来い！俺は桜咲刹那なのだからお前の不安材料はなくなつただ  
ろ？早く暴れさせろ

「そりか、なら大丈夫だ・・・バイバイ」

そり言つて銃口を俺に向けて撃つた

けど

「デフレクショ  
風櫃」

魔法の盾を出して防ぎますた  
W W W W W W W W

「なつー、どうした事だー。」

また撃つてきたけどまた防いだ

「フヒヒwwwもういいや、  
投影開始wwwつて厨一くせwww」  
トレースオン

作ったのはみんな】存知マテリアルフレーム それでとりあえず□  
ープを切った

「元気だ！」のが甘瀬すそ

そNENとニサイ男かせいで見た

神嚙流奧義  
百花繚舌 W W W W

めんどくさいので始めつから奥義使用です WWWそれで10人  
くらい気絶?か死んだ WWW

「ちょ  
WW俺人殺し  
WWW・・・・・  
・でもいつか  
WWWWWW」

あと5人どうしてくれよう WWWWW

バツン！！

近くのドアが勢いよく開いた

「秋！木乃香！刹那君！大丈夫か！？」

・・・・・

「なんで来るんだよ・・・父さん・・・

今から俺無双しようと・・・・・・あーそだ

「・・・・・父さんー」こいつらに木乃香が・・・・・木乃香が

どいつもせならボッコボッコにしてやつて

「なつーーーーーーー貴様いらああああああーーーーーーー

そっからは父さん無双www

「フヒヒwwwあつ刹那大丈夫？」

隅っこで小さくなつっていた

「・・・・・なんでそんな強いんや・・・うち馬鹿みたいやん

何故泣く？

「いや、なんで泣く？俺が何かしたみたいじやん」

「・・・・・なんでもない・・・それより・・・帰る

「セリヤー、ベベー」

「ウツバ、リサヤン

またケマコしてる~~~~~

「そして俺もまたロープで縛られてる~~~~~

しかも亀甲縛り~~~~~グレーダップしてる~~~~~

「…………あの、木乃香さん。なんで俺は縛られて?あとなぜ

亀甲縛り?」ドう覚えた?

ホントに意味がわからない

「だつてお兄ちやんはつとこたうかうと部屋あるやうへ。」

「まあ、お兄ちやんはしない……」

力強く言つてみた

「…………せつちゃん、池の方に遊びに行こ  
え？」

「でもそこは危険やから近付いたらあかんつて

待つて

「と言つた木乃香？それ俺を置いてつてつて事？」

「…………大丈夫やつて、とにかく行こ」

無視した上、放置ですか！？」

「うつ…………うん

そして二人でトテトテと行つた

「…………んじょ、ぐお！よつきつく！」

自力でなんとか抜け出そうとしたけど違う何かがぬけそうになつた

「ふつ！はつ！あん！…………ちくそつ……抜け出せな「バシャ  
ン！」バシャン？」

何かの音が

「ハア、ハア、秋君！助けて！このちゃんがー！このちゃんがー！」

「ん？ うん、わかつたけどとつあえず亀甲縛りを解いて」

河

行つてみたら木乃香が溺れてたので助けてますた~~~~~

「いいか木乃香？俺を亀甲縛りにして置いて行くからあんな事になるんだぞ」

「べつ別に置いて行かれて淋しかつたわけじゃないんだからね！（くぎみーボイス）

「うん、今度からは適度に動けるよ！」（縛る）

「ううじやないんだよなあ～

「ヒック、じめんな？」（のちやん、うちゃんもできん）

「うちは泣いてる、てか刹那お前よく泣くな

「別にいこよ、うひが悪いんや。お兄ちやんが行くなゆうとこの行つたで」

「まあ今回は行つた木乃香も悪いし、ついて行つた刹那も悪いし、

止められなかつた俺も悪かつたつて事で。刹那もあんまり悩むなよ  
？お前は変な所で真面目だから」

まあその日は三人で父さんに怒られた

あと何故かその日から刹那は神鳴流を習い始めた

6年後

「いつも、皮が一つの意味で剥けた秋です

木乃香は7歳になると同時に麻帆良学園に入学しに行つた、まあかなりしぶつてたけど

刹那は木乃香が中学一年になると同時に麻帆良学園に行かせた、まあやつぱり妹は可愛いものなんですよ

俺はといつと父さんと一緒に神鳴流とかいろいろやつてる、もちろんジャージ（緑色）で

「…………あれ？…………父さん」

「なんだ、秋」

書類に印をとつしながら返事をしてくれた

「……俺何でこんな事してんの？俺も中学一年生くらいの歳なんだけど？」

「あつ…………ああ～…………」

何だか1番嫌な反応

「いや、な？秋は何だか大人っぽい感じがしてな？」

確かに精神年齢がいいオッサンだけどさ？

「は～…………つて1番重要な事忘れてた！！！」

「なつ何がだい？」

少しビックリしながら聞いてきた

「俺何仕事してんの！？何で二ートしてないの！？」「これじゃジャー  
ジ着て仕事してるただの変な人じゃないか！！」

「二ートも変な人なんだがね？」

クソ、何で俺こんな事を！！

「おい！父さん！俺を学校に通わせろ！素敵な思春期を満喫させろ  
！～ちょっとエロスな単語が出て来るだけで以上な反応を見せる中  
学生にさせろ！！！」

「…………」

「それはホントになりたいか？・・・・・まあわかつた、今まで頑張つて来てもうつたんだ。来年の新学期には麻帆良学園に送りう、なら早くお父さんと話さないと」

そつと電話をした部屋から出て行った

「……………いやつか～～～マジですかイノ～～～」

そんな訳で来年から学園生活です！

4話 学園生活 WWW（後書き）

次から麻帆良学園に行きます

はい、秋でえ～すwww

あれから一年たつてやつと学校に行ける事になつて今は麻帆良学園のぬりひょんの部屋にいる

「で、なんで俺は女子中学の校長室に居るのかな～？ぬりひょん

「実のお爺さんに向かってヒディイの～・・・・・実は秋には先生になつてもうえんかの～つと思つてな？」

ジジイが首傾げても可愛くないんだよ～死ぬか！ああ？

「やだ、俺が父さんに言つたのは学生になる事なわけ？わかる？高望みはしないよ、ただ共学で女子ダメの学校に転入させてくれればそれでいいの！あと基本ニートでいられれば！それだけで」

「十分高いは、・・・・・そこを何とか頼めんか？ほら、担任になるクラスには木乃香があるぞ？」

だから首を傾げるな～～

「勘違いしてね？別に俺ブラコンとかじゃないから、とにかく共学！で女子ダメ！」

「う～、実は今年に秋も知つてゐるであろ？ナギ・スプリングフィールドの息子が来るのだ・・・・・気になるであろ？」

モルヒネ・ヒドロキシド

「別に？興味ないけど、あつそだー。ジャージ登校ねー！」しゃがれよ

もう俺普通の服もつてないんだから

— ん) 夕か舟三君何とかならんかの(」

ダバ一くねえたダンティー! な人に助けもとめんな

タシテ、一も乗るよ

ヤ  
た  
！」

ホノモト

(ああテテテテニセシ神様とニモ)

な、神が何故、まあとりあえず

( ほし こせん 秒 です なんだよ しきなに とく )

(いや、お前原作介入しようとしないんだもんｗｗｗｗととにかく担任になれｗｗｗそしてネギの茶々丸のフラグをぶつこわせｗｗｗｗどうぞ)

(出来れーットで終わりたかつたがwwwまあ、okwww把

握 wwwwww(ひづり)

そんな事があります www

「で、どうかの? 秋君」

あさりめの悪こじジジイめ、よからつ

「おぐ wwwwww 把握 wwwwww その変わりジャージでの登校を www

「わかつた wwwww」

「乗せられないでください」

フヒヒ wwwwww 伝染病 wwwww

「じゅあそろそろネギ君が来ると思つから」「バッソ……!」「ホレ來  
た」

ドアが開いてツインテールと赤髪と木乃香が入つて來た

「ちよつと学園長……こつが先生つてどうした事ですか!」

あつこじ漫画でみた事ある

「あつこじ漫画でみた事ある

「ん? ああ俺お前のクラスの担任になるから wwwww

フヒヒ wwwwww やべ www 妹の担任とか wwwww

「つむぎとあんたも担任なのー? どうみても私達と歳あんまり変わらないじゃない」

ツインテールの人<sup>1</sup>が騒いでる

「はざめますてwww木乃香の兄の近衛秋ですwww」

「えー? 木乃香あんたお兄さん居たのー?」

ビックリするwww

「うん、言つてなかつたけー」

なんか騒がしやつなwww

「ほら、一人とも。早く教室に戻つて」

ダンディーが一人に言つと二人は教室に帰つて行つた

その後しづな先生と言う名のバインボインがやつて来てクラス名簿を渡されて今は教室にネギ君と一緒に向かってる最中なのです

「あつあの、えつと僕ネギ・スプリングフィールドって言いますー!」

ん?

「いや、知つてる」

だから何だい?

「そうじやなくて貴方の名前は？」

「そう言つ事ね、俺は近衛秋なんとでも好きなよつに呼べばいい

つかネギ君ちつさいなあ／あつ！まだ10歳だもんね WWW

「なら秋さん、秋さんは何でジャージ何ですか？」

これは俺のアーティストマークだから

「は、  
せぬ」

まだわからなくていいんだよ、大人で一ートになればわかるから

「付いたわよ」

しづな先生（と言つなのバインボイン）が言つた

卷之二

氣合い入つてんない

「ネギ君から入りなよ、俺は後から入るから」

ただの善意だよ？別に黒板消しがドアに挟まってるとか関係なしに

氣合い入つてんない

「ネギ君から入りなよ、俺は後から入るから」

ただの善意だよ？別に黒板消しがドアに挟まってるとか関係なしに

「あつありがとうございます、いつ行きます」

碇君が？

とりあえずネギ君が最初は黒板消しから始まりなんやかんやあつて  
皆さんもみくちゃにされてる・・・・死ねリア充

「まつ待つてください！もつもつ一人副担任の人居るんです！」

もみくちゃにされながら頑張つて言つてる・・・死ねリア充

「だつだからとりあえず席に着いてください！・・・・・・・・・・は  
い、じやあ入つて来てください！」

・・・死ねリア充つと思いながらドアを開けた

ガラガラ

「死ねリア充・・・・・・ああ～先生になりました近衛秋です、  
教科はいろいろ出来きます。あとジャージ（緑色）についてはノー  
コメントで」

・・・・・・・・

「（あれ！？何で皆こんなにリアクションがない！？やつぱり最初  
の言葉がまずかったか？）

ホントに予想外デス

「あの、質問いいですか？」

あ～えっと、そだ朝倉南だ

「どうぞ南ちゃん」

「南ちゃん？まあいいや、秋先生はうちのクラスにいる近衛さんと何か関係は？」

いきなりくるか南ちゃん

「よそう通り兄弟だぞ、あと歳は木乃香の一つ上だ」

クラスがザワツとなる

こんなリアクションを求めてたんだよ俺はwww

「なら何で担任に？」

「ホントは普通に共学の生徒になるために来たんだけど何故か先生になつてました、楽しかったです」

「作文！？しかしそんな適当な…………考へてもしかたないか！なら次にこのクラスで好みの女性を聞いてみようかな！？」

フウ～～！！

何故に中学生男子みたいな冷やかしかた？

「ん～そだなあ～・・・」

クラス名簿を見た

「（正直ネギまーシラネｗｗｗラブひなはかなり見てたけ・・・・！！！？・・・何で素子が！？ラブひなの素子が！？あつそーか、此処ではアキラ的な人としてゲスト出演してるのか）」

「決まつた？」

南ちゃんが聞いてきた

「おーそだな、大河内かな？」

と同時にまたフウー！つと言つ中学生男子の冷やかしかたと大河内が真つ赤になつた後何故か刹那から信じられないくらいの殺氣を俺と大河内に向けたｗｗ

「なつならそろそろ授業しますね？」

ネギ君がそう主張してるので黙つて後ろの方の席に移動した

「どつこ～しょうじゅ・・・・・よろしくね、あつたんｗｗｗｗ  
ｗｗ」

座つたのはちうたんの隣ですｗｗｗｗ

「なつ！何で先生が知つてんだよ（小声）

「じめ www 俺基本一ートだから www そつ た情報得意 w  
www」

ちうたんが小声で喋つてゐけどお構いなしに喋べる www

「絶対に誰にも言ひなよー」(小声)

「お k www 把握 www」

フヒヒ www 大声です www

「ぐう、あんたみたいなのに知られるなんて」

ちうたんよ www そつがっかりするな www

「てかあんたみたいなのってなんだよ www 俺、木乃香の兄だぞ w  
ww」

「・・・そつ そつ 所だよ、ハアーマジでついてない

ん?

「そらちうたんは女の子だから付いてるわけ「そつちじじゃねえーー。」

・・・「ハ、長谷川。大声で喋るな、授業中だぞ」

そう言つとちうたんは周りを見て自分に視線向いてる事に興奮・・・  
じゃなくて氣付いて真っ赤になりながら席に座つた

「ちうたん、赤くなるのは初夜の時だけにしなさい。股間限定で w  
www」

「…………死ね、もしくは私が死ぬ」

…………うん！女子中も悪くないな（笑）

そんな登校初日でした

はい、秋なのです！

今はまだネギ君が授業します、ちなみにちうたんは俺の言葉攻めに屈して寝てます

「（…………暇だなあ…………刹那就遊ぼ）」

よし、そうと決まれば。

「（前方に刹那就の頭を発見ーちうたんの消しゴムで攻撃します）」

俺はちうたんのふで箱に入ってる消しゴムを取つて小さくちぎつて

「（…………行くぜ、ジャイロボール！）」

某野球漫画のサウスパーの人が得意なボールを投げた

バコッ！ガン！

あつ、当たつたけど。消しゴムが当たつた勢いで机に顔をぶつけて氣絶した

ヤバイ、皆俺と刹那就を交互に見てる…………でもネギ君は気付いてないみたい

「（…………大人しくしてよ）」

大人しく席に着いた

一時間田に出た損害

重体 桜咲刹那 心に重体 ちつたん

無くなつた物 ちつたんの消しゴム

一時間田

「ええ～一時間田は私、近衛秋が担当させていただきます」

うわ、皆信用してない田だな

「えつと、何する時間？」

「お兄ちゃんが先生なんやで？自分で決めなや」

木乃香、それがわからないんだよ

「ん～・・・なら英語をします！今から俺の言つ事をリピートアフターミ～」

何故みんなそんな「英語なんて出来るの？」見たいな田で見てきて、興奮するじやないか

「ええ～つと、『YOSHICHIYANO』はい・リ・ピート智代アフターミ～」

「待て！ラーニーそれは英語なのか！？違うだろ！あと智代アフターフ  
て言ったか！？何で途中で、ギャルゲーなんだよ！」

「おお～凄いシッ！」ミミだな、つかいつ生き返った。ちうたん

「ほら、ちうたんや。みんなやつてるよ？」

ちうたんが監を見た

「YOOH行つちやいなYU」

「パルさんよ、星が黒くなつてますもつ一度」

「YOOH行つちやいなYU#」

「木乃香さん、最後がシャープになつてます。もう一度」

「YOOH、いつ行つちやいなYU」／＼＼＼＼＼

「大河内さんGOOD!! 照れてる所がなんとも…」

あつちうたんが自分の席に戻つて・・・・・寝た

## 二時間目の損害

重体 桜咲刹那 心にもつと重体 ちうたん

「ちなみに、『YOOH行つちやいなYU』はテストに出ます」

授業終了

保健室

「だから謝つてるでしょ?『めんwwwwww』

「誠意が感じられないんです!」

今刹那の傷を治した所です

「つかお前いつから標準語に?」

実は10才くらいから会つてなかつたからなあ~

「その、私は秋様とそんな気軽に話かけていいような者ではないので」

あれ?でも普通に木乃香とは話てるよね?

「つか秋様つてwwwあとならなんで木乃香とは普通に話てるの?」

「ホントはお嬢様とも控えた方がいいと思つてるんですが・・・」  
このおやんが喋りかけてくるから

ん?

「俺も話かけてるじやん、俺とは話たく「そんなんやあらへん!」  
おふつー!ビックリさせないで、心が弱いんだから」

まだ心は一ートなんだから

「ホントはうちも秋君と話たい…………でも、けつこう…………ハーフやから」

「…………よし、羽出せ、むしり取つてやる」

確かに背中から生えてたよな

「まつ待つてつてー、そんな事したら、うち死んでしまつー。」

両肩を抱きながら後ろにさがつた

「嫌なら氣にするなー、お前は俺が拾つてきた、言わばお前は俺の物なの? わかった?」

「え? うち、物なん?」

いや、んなビックリした表情しなくても

「当たり前だろ? だから次秋様wwとか言つたら捨てるからな」

「う、うん……秋さん……」

まだかたいけど大丈夫か

「あつ秋さん、秋さんとネギ先生の歓迎会があつたんでした」

へ

「「Jめん、バス。俺今から荷造りとか一ートとかしなきゃいけないから、つかお前も手伝えWWW」

「えー？ つてちょっと待つて！」

刹那連れて「G」！

女子寮

「つて此処女子寮じゃないですかーー？」

「ああー、ジジイに男子寮か女子寮のどちらかの管理人になつてつて言われたから女子寮にした」

刹那がジト目で見てきた

「なんで女子寮なんですか？」

「女の子が居るからだらうが、あつお前俺の部屋に住めよー。」

と言つた瞬間真っ赤になつた

「ななつーーー何ですかーー？ 確かに私は秋さんの物ですがーー」

「

モジモジすなや

「いや、俺はいいんだけど管理室が汚かつたらダメだろ？だからお前も一緒に住んで掃除とかしぃ。大丈夫だ、今はヒンヌーに興味ないから」

「あつせつですか…………はー」

なにあからせまごブルーになつてんだよ

「じゃ、掃除とかしへ。あつ一段ベットの一階は俺だから

「つて秋さんは何処にって行つちやつた

とつあえずお挨拶しに行かねば

ヒガアンジヒン家

ハニコン

「はい、あつ。秋先生いらつしゃいます」

おおー

「君が茶々丸か！ふう、んなかなか可愛いなー」

「恐縮です」

ホントにおもしろいな

「茶々丸！タカミチでも来た、何だ秋先生じゃないか」

奥からエヴァンジエリンが

「・・・茶々丸ってメアドあるの？」

「パソコンのアドレスなら」

「へ～「おーーーん？」

「なんだよエヴァ」

奥から出てきて今は俺の目の前に居る

「私に用があつてきたんだろ？何たつて近衛詠春の子供なんだからな？悪は倒さないとな？」

意味ありげに微笑んできたので

「茶々丸つていつからキティーの従者に「待て！何故貴様がその名を知つている！・・・」・・・茶々丸、キティーちゃんが五月蠅いから帰るね」

「はい、秋先生」「おい！茶々丸まで私を無視」マスター、少しあちらえ

そう言つと茶々丸はエヴァを子供みたいに抱き上げて奥に連れて行つた

「おい、こり！茶々丸！離せ！お前のマスターは私だろつて！近衛秋！何処に行く！」

漫才に飽きたから帰る事にした。

## 女子寮

「ただいま、おお～頑張ったな？刹那」

荷物が全部片付いてる

「・・・ホントに疲れたわ～少しほうちの事考えて」

汗が額に少し垂れてる

「フヒヒ~~~~~」苦勞様~~~~ついでに料理作つて

俺駄目人間~~~~~

「へ？りょ、料理？」

「…………出来ないとか言つなよ？一応お前も女の子なんだからな？」

「うう…………めんなさい、出来ません」

…………

「お前将来何になるつもりなの？料理出来ない勉強出来ない…………何ができるの？」

「うう…………あつ秋君やつて…「言つとくが！」ん？」

「俺は一応、大卒程度の学力あるし料理も人並みに出来る。あと俺  
ん家金持ちwww」

まあ転生する前は大学通つてたしねwww

「うう…………ならうち秋君のお嫁さんに「料理出来ない人はお断  
りです」なつならー料理出来るようになつたら結婚して！」

何故？

「やだよ、結婚する人くらい自分で決める」

「うう…………なつひひひなにすれば

よよと倒れた

「…………めんどくさい、とにかく飯喰つぞ」

とりあえず炒飯でも作るか

「…………はい」

元気ないなあ

とにかく!俺先生はじめました

7話 ドMwww(前書き)

やつべ  
www自分で何書きたかったのか忘れた  
www  
www  
www

おはよ'び'ざこます、秋です

昨日は大変でした、料理は作らなきやいけないしゲームのしまう場所は違うは掃除は適当だし、で結局全部自分でやつてたら朝です

「・・・使えない」

せなみは糸那は起きてモ邪魔はしからないのモ痛がしました

九月九日節序歌

卷之三

卷之三

寝ぼけてやがる・・・ますます腹立たつ（怒）

だいたい一ートなのに仕事してて事じたいに腹立つてんのに自分の家の掃除まで・・・・・これじゃ独身男の毎日じやん!出来

「…………ペーマン朝飯に混ぜてやる」

刹那はピーマンが大っ嫌いです

「畠さん、おはようございますー秋クッキングの時間です」

自分でワーケットHキストラの役をやって

「それではクッキング開始です、まずピーマンを3個用意します。軽く水洗いしたら胡麻擂りで種も取らずに混ぜます、ガンガン！混ぜます」

グルグルグルグル

「はい、このように縁の物体になつたらパンにたっぷりと塗つて出来上がりですー」

名付けて縁の固形物です

「ほら、刹那。朝ご飯だぞ」

近くの机に置いた

「はい、いただきます」

そして縁の固形物を口に運んだ

「うわ！何ですかこれ！」

若干涙目になりながら訴えてきた

「文句言わない！料理出来ないくせに」

「あ～～～秋さん！何でも言つて聞かまえよから私も普通のパンを～～」

「手を合わせながら涙目で訴えてくる

「馬鹿め、お前は元々俺の物！何だからそんなの通用するけども～」

「うう～～～～～パクッ～～～ヒック～～～歎い」

・・・あの、やめて？泣きじゃくりながら縁の固形物を食べるの。俺悪い事してるみたいな気持ちになるじやん？（自分が酷い事してる事に気付いてない）

「（・・・・・ま、いつかー早く食べよ）」

刹那が泣きじゃくりながら縁の固形物を食べる姿をおかず普通のパンを食べた

「ほひ、早く行かないと遅刻するだ」

「・・・はい・・・・苦になあ～～～チワッ」

舌を出しながら苦い事をアピールして俺を見てくる

「・・・・捨てるや」

「いじめんなさい」

すぐに頭を下げてきた

「フヒヒwwwブルジョアサイゴー wwwww」

学校に向かつた

授業中

「はあ～・・・暇だ」

ネギ君が頑張つる姿見てもおもしろくないしな

「かうたん、暇」

でもかうたんはパソコンをしていて無視

「・・・・・えつとたしか」

ポツケから出したのはかうたんの等身大ポスター、どうやって入れてたかは内緒だよ

とりあえずポスターを教室の後ろに張つてみた、まだちうたんは気付いてないみたいなので教えてあげよう

「ちうたん、ちうたん

• • • • • • •

## 無視かよ

「ちうたんの等身大ポスターが教室の後ろに張つてみたんだけど

言つたと同時にちうたんが勢いよく後ろを振り返つた

ポスターを剥がしてからあくまで小声で言つてきた

一  
だつてちうたん無視するんだもん」

「お前の橋手は疲れたんだよ！」（小川）

そんなに立一のかしやなんだ

つかお前の相手はそこに居るだろ！（小声）

「やだよ、あいつめんべいなんだもん」

「私はお前がめんどくさいんだよ（小声）

それを最後にちうたんはパソコンに向かつた

しかたない、キティーの所に行くか

「ハロー、キティー」

「繋げて読むな！」

おお～授業関係なしに大声だ

「何そんなにキレてんの？生理？？？？まだないか」

「あるわ！それと“まだ”ってなんだ！？“まだ”って！生理くらい数えきれないくらいになあつたわ！」

ふう～ん

「HUGO ANGELINEさん、授業中に卑猥な事を言わないでください。  
先生近頃の中学生の淫らな感じ嫌いです」

先生っぽく叱つてみた

「くう～～貴様言わせておけば～！」

キンコ～カ～ンコ～ン

「それでは授業を終わりますね

ネギ君がそう言って授業が終了した

「じゃ、キティー。俺お腹空いたから家帰る」

ガシ

肩を掴まれた

「待て貴様、まだ一時間だし貴様は教師だろ」

それが言いたいだけで茶々丸に俺の肩掴ませるなよ茶々丸困つて  
じゃん、いくら自分が届かないからって

「だつて俺の授業5時間目からだから」

「なら何で教室に居るんだ！？？」

ゴラゴラ

茶々丸にゴラゴラさせるなよ

「てか何なの？お前わざわざからちよつかい出してきて、お前はあれ  
か？好きな子をちょつかいしたくなる小学生か？」

「誰が小学生体型だ！？」

・・・・・めんどくさい

「茶々丸、これから一緒に食事しない？大河内も誘つつつもつなんだ  
けど」

「いえ、私は食べたり出来ないので」

「やうか、しかたない」「おいゴラ！何無視してくれてんだ」……  
・めんぢくせこ、お前マジでめんぢくせこ…」

わつかから喋る」とにキティか殺氣が増すし

「一番めんぢくせこ奴に言われたくない！」

早く飯食いながらエロゲーしたいんですけど……いや、飯食い  
ながらエロゲーは気持ち悪くなるな

「……わかった、面白い情報その1。ナギ・スプーリングフィ  
ールド生きてまあ～す」

つて言つとビックリした表情で少しの間固まつた

「じゃ、茶々丸またね「待て！何で貴様がそんな事を知つていいー。  
・・・もつとめんぢくせこ事に」

漫画は5巻まで見たから立ち読みで

「なんだよ、もつといだろ？面白い情報あげたんだから

「だから何で貴様がそんな事を知つていいのかと聞いているー。」

茶々丸を退けて俺に飛び掛かって来た

「ああ～、何でもいいだろ？生きてんのは確かなんだから」

「そう言つとやつと離した

「そりか、アイツは生きているのか！フハハ！」

「・・・茶々丸、バイバイ」

「はい、秋先生さよなら」

律儀に頭下げて、いい子やね

「フハハ！つて近衛秋は？」

「先程帰られました」

昼休み

「ハア～・・・木乃香、お茶」

「はいな

ズズツ

「プハア～・・・木乃香卵焼き」

「はいな」

ヒヨイ、パク

「フハア～・・・木乃「秋さん、何でもいいですから動きましょ  
うよ」・・・そうだね」

だつて木乃香の隣でボーッと座つてて、試しに「お茶」つて言つた  
らくれたんだもん

「・・・・・一ートになりたい」

「數から棒になんですか? といつか基本一ートじゃないですか」

あのね?

「お前が俺の部屋に住んだら楽になるかな? つと思つたけどお前邪  
魔なだけだ「ちょっと待つたあ!」 なんだい朝倉」

「今聞いたんだけど刹那さんと秋先生つて一緒に住んでるの?」

「そうでげすけど何か? ソウソウソウ」

朝倉がビックリな表情を

「いいの? そんな簡単に認めて? 教師でしょ?」

「教師である前にブルジョアです ソウソウブルジョアである前に一  
トです ソウソウだから別に問題ないだろ? ソウソウソウつか刹那の

裸とか興味ないから大丈夫ｗｗｗｗｗｗ

あれ？刹那が崩れ落ちたｗｗ

「へ～・・・・」

そう言つと朝倉はどこかに行つた

「フヒヒｗｗｗｗおい、刹那何してる」

クラウチングスタートの格好をする前のポーズになつてゐる、つまり  
服従のポーズｗｗｗｗ

「なあ、うちつてそんなに魅力ないん？」

「うん、せめて大河内とかタツミーとか茶々丸ボディになつてから  
言えｗｗｗｗ」

あつ泣いたｗｗｗｗ

「うええええええええん！」

だるいｗｗｗｗ

「・・・木乃香バス」

「打ち返したるわ」

チクソウ、自分で何とかしなければ

「・・・・・刹那大好き」

「え? ホントですか! ? / / /」

「「」めん、『冗談』」

あつまた泣いたwww

「お兄ちゃん、もう少し女心をわからなあかんわ」

だつて男だもん、だつて二ートだもん、ギャルゲーの女心ならわかるのに

「・・・・・ビリしたらいですが、木乃香さん」

「ややなあー・・・・『二郎』『二郎』」

「おふつー!俺は耳が性感帯なのか、しかし。わかつたやつてみよつ」

大丈夫、俺なら出来る

「刹那」

「ヒック、エッグ・・・・何でずが」

めつちや泣いてるやん

「お前は俺の物! しかも一生だ! 魅力があるとかないと関係ないの! お前は俺の側にいなさい」

木乃香いわく「せつちゃんドMやから強く言つたら何とかなるで」・  
・・・女心は何処に行つた

「はつ・・・・はい／／／」

作戦大成功 WWW

ちなみにこのあとネギ君がいろんな人に追い掛けられてたけど・・・  
・・無視しました WWW

どうしよう、先の事考えてない

8話 子育てwww(前書き)

祭とか映画とかで更新遅くなりました!

フヒヒwwwwwwサーセンwwwwww秋ですwww  
どうやら昨日はネギ君が惚れ薬を飲んで高崎のどかにフリグを立て  
たようです

そして今は部屋に留ます

「ヒック、智代おー・・・いい話だった・・・ホント!」

今パソコンで智代アフターをやり終わった所です

「凄い泣いてますね」

フツ悲しい奴だ、このギャルゲーを知らないなんて

「お前に出来るか?全てを投げ出してまで愛する人を愛する事が

ホントにいい女だよ、智代さん。結婚するならあんな感じの人人がいいな

「で、出来ますよー私だって!」

「てかお前は俺の物だからつまり奴隸だから元々なにもないかwww  
」

とりあえずもう一回パソコンをやるか

「・・・私は人権もないんですか」

また崩れ落ちた

「次なんのギャルゲーしようかなあ～」

恋姫+無双の無印やろっかな

「つて秋さん！学校！もつ朝です！」

ええ～今から恋姫+無双の無印やろっかと思つてたのに

「・・・はあ～・・・・・・・・行くか」

ちうたんをいじりにwww

学校（一時間目）

「ああ～・・・暇だ」

今日はネギ君じゃないから変な事出来ないし・・・

「・・・ちうたん休みだし」

あのやるひつ逃げやがつたな

「…………セニショはグー、じゃんけんポン…………あいこでしょ。  
…………あいこでしょ…………あいこでしょ  
「あいこでしょ」

一人じゃんけんします

授業終了

「あいこでしょ…………一人じゃんけんして一時間終わると  
か」

ヤバイ、泣きそう~~~~~

「おーーー近衛秋ーーー

口リ金髪が現れた！

「なんでそうか？」

秋はとりあえず理由を聞いた

「別に理由はない！」

・・・・秋は逃げ出した

「なんなんだよ、あのロリ金髪は」

「汗かいだじやないか

「…………秋さん、何で私を連れてきたんですか？」

教室を出る時に刹那が田に入つたので連れてきましたww

「暇だから」

「…………クスン（泣）」

しかし教室に戻るとしてもモンスター（エヴァンジョン）が居て強制戦闘イベントが発生するしな……

「ん~…………刹那

「はい？」

「子供を育ててみたい」

言つたとたんに刹那は意味がわからないといつ表情をした

「…………何故育てたいんですか？」

あくまでジト目で聞いてくれる

「その子供を俺色に染め上げるためじゃないか

あつため息つかれた…………腹立つな（怒）

「…………秋さんには子育ては無理だと思こます」

思こますよ～じゃなくて思こますつか

「うん、多分俺も無理だと思つ…………やだ！歳が幼いから無理なんだよ～」

「どういふ事ですか？」

「だから、子育てがしたい、でも俺には2歳や1歳の子供を育てる自信がない…………だから刹那を育ててみよつと思こいます！」

刹那はホントに意味がわからないうつて感じだ

「…………何故私は秋さんに育ててもらわなければいけないのでしょつか？」

顔の表情が全くないぞ

「刹那に赤ちゃんの格好させて俺が育てますーなら手がかかるないじゃん？お前夜泣きとかトイレくらい自分で出来るだろ？」

「当たり前ですー...とこつか絶対嫌ですそんなんのー...」

皿室

「ばつ・・・・・ばぶーーー」

さすが俺の物だ、最後にはけやんと皿の事聞くね

ちなみに今の刹那の格好は口元おしゃぶり、首によだれかけ、服は赤ちゃんが着てそうな服・・・・・ペッシュチピッシュチだけどwww、あと刹那が居る場所は赤ちゃんが寝てるような場所に入ってる、はみ出てるけどwww

「・・・・・つで、俺は何をすればいいんだろ?」

「やること決めてからやつしていくだきーーー!」

おおーかなり怒つてうつしゃる、まあ14才が赤ちゃんの格好させられりや怒るよなwww

「ん~、せつちゃん何してほし?」

ちょっと幼い子に皿のよつて皿みて

「うーー、別に何もしてほしくありませんよーーー」

さつきからずつと顔真つ赤WW

「つかつかちゃんとね、ねえんと赤ちゃん両葉でーぬーー。」

アヒビ  
W  
W  
W  
W  
W  
テラワロス  
W  
W  
W

・・・・・子守唄でも歌つてやろうか?」

- 10 -

ちゃんと赤ちゃんと言葉を守りながら聞いてくると、なかなかやるな

「いや、俺の中で子供=子守唄って言つ方程式があるべり<sup>1</sup>定番な  
わけで。とにかく、よつこじょー。」

俺は刹那を抱き上げて、刹那をお姫様抱っこした

え！？ちみつ！？待てえ！

問答無用！つかおしゃぶり落ちた

そして落ちたおしゃぶりをまた律儀にくわえた刹那が居るWW

・・・・メルト溶けてしまい

子守唄しらないのでメルト歌つてみたww

10 分後

「んう～・・・スウ～・・・チユパチユパ」

刹那は寝てしまった、今は俺に顔を埋めるようにして寝てる。たまにおしゃぶりを吸つてるようだ・・・・・・フヒヒヒヒヒヒヒ

ｗｗｗｗ超！楽しいｗｗｗｗｗ

「・・・・・つかだるくなつてきたな」

正直もう飽きた

ガチヤ

ん？誰か入って来た

お兄ちゃん、授業始まるえ···・···・···・···・···何しどん?」「

入って来たのは木乃香だつた

— ● ● ● ● 子育て

「まことに立派な学生であります？」

知つてますかな

「ん? なんやうつむかほんまに寝てもひ・・・・・・何でいのひやんが  
此處に! ! ?」

腕の中で暴れるなよ刹那

「せつちちさん……なんや面白そうな事しどるな

珍しい、木乃香が笑いを堪えてる

「ちつ違うねん！これは秋君に無理矢理やられて、つてこのちちやん！待つて！何処行く」「バタン！……」

刹那が話かけてる最中に部屋を出て行った……笑いが堪えきれなくなつたんだらうな

「うっ……もうええ……」

そう言って起きる前の体制をとつた、つまり俺の胸に顔を隠すようになした

「何すんだよ

「うう、もう一回寝る

目を開じようとしたので

「……ホイ

お姫様抱っこしてゐる腕を離した

「イタ……何で落とすんですか？」

落ちた時にお尻をぶつけたのかお尻を摩りながら聞いてきた

「だるい、飽きた、寝る」

俺は自分のベットに入り寝た、次の授業なんかしるか。眠いから寝る！

「…………馬鹿…………馬鹿」

その後風呂場で制服に着替えて学校に行つた刹那がいた…………ついでにモンスター（エヴァンジェリン）倒してきてね

8話 子育てwww（後書き）

今回の話は完璧に自分の趣味です！

## 9話 ドッジボールwww

「どうもwww刹那で遊びまくった秋ですwww

ちなみに今は暇なので学園をブラブラします、え?暇なら部屋でギヤルゲーでもするのかと思つたつて?

たしかに俺まそしきたよ?でも今部屋で刹那がヒツキーして部屋に入れないんです、そんなに昨日のが堪えたか

「ん~・・・暇だ「キャア!」大河内の悲鳴だと!-!-!」

大河内の悲鳴がした場所に向かつた

「」

悲鳴の場所に来ると大河内とその他が高校生?かよくわかんない人達にボールを当てられてた

「(・・・・・潰す!-!-!あのババアビもマジでぶつ潰す!-!-!)  
テメエラ!-!-!何しとんじや!-!-?」

大河内とその他にボールを当てるババアビもに言つた

「!-!-!-!-!あつ貴方こそ何なんですか!-?此処は女子校よ!-」

大河内とその他に暴力ふるつといてその態度か？スクールデイズの誠、並にムカついたぞ！？

「俺は大河内とその他の担任じゃボケ！！その他はいいよ、でも大河内は駄目だろ！！？大河内の肌に傷でもつけてみる、一生心に残る傷をつけてやるぞ？」

殺氣満載でお送りさせていただいてます

「ヒツ・・・あつ・・・あ・・・」

ババア達は地面に座り込んでしまった・・・・・それで許すとでも？マジで潰すよ

「さあ、お前の罪を数え「待つてくれ！秋君」なんだ、タカミチじやん何でいんの？」

知らないうちにタカミチが俺の後ろにいた・・・・・あつ「俺の後ろに立つな！」ってやり忘れてた

「そりや、あんなに殺氣と魔力を放出していれば、ね？」

おつと！殺氣はともかく魔力を放出していれば、ね？

「ふう～、しかたないな。後はタカミチに任せるとよ」

久しぶりに魔力と殺氣を出したからかな？疲れたから部屋に帰る

なんとかなったね、しかしあはり魔力量はかなり多いねあと殺氣も  
「ほら、君達もいつまでも地面に座つてないで自分達の教室に帰り  
なさい」

そう言つて高校生の子達はゆっくりと立ち上がって放心状態で教室  
まで帰つて行つた

「大丈夫だつたかい？」

今度は秋君とネギ君のクラスの子に話かけた

「・・・・あつ大丈夫です」

大河内君だつけ？その子が一番最初に我にかえつた

「しかし秋先生つて怒ると怖いんやね？自分が怒られるとる訳やない  
けどかなり緊張したで」

亜子君も我にかえつたみたいだ

「そりだにやー、つか私達の扱い大河内とその他つて！その他つて  
！完璧に私達を助けた理由がアキラが絡まれてるからじやん！」

裕奈君も、まあとにかく外傷がなくてなによりだ

「それじゃ、僕はこれで失礼するよ」

その場を後にした

### Side秋

「あ、あ、テスティス。桜咲刹那！お前はすでに包囲されている！おとなしく出てきなさいもしくは鍵を開けなさい！」

メガホン片手に俺の部屋を占領している刹那に向けて言つた

「いやです！今は穴があつたら入りたいくらいに恥ずかしいんですね！…」

だから立て籠もりか、てか

「刹那！お前が穴に“入る”んじゃなくてお前は穴に“入られる”側だろ？が！」

ちゃんと間違いをすぐに教える、教師つて素晴らしい！

「…・・・馬鹿！そつ言つ所が駄目何ですよ…」

自分の物に馬鹿つて言われた…・・・お前も自慢できる成績してないだろ？

「…・・・・・開けろ！捨てんぞ！一段ボールに詰めて段ボールの表面に『拾うな！危険！』って書くぞ…」

「捨てられたうえ、『拾つた！危険！』ですか！？……………」  
「わかりましたよお～」

「渋々と言つた感じにやつとドアを開けた

「やつと開けたか、とりあえずお仕置きだな

「こんな手間をかけさせたんだからな

「うつ…………何ですか？」

慣れてきたな、コノツコノツ

「…………ロータ〇入れっぱなしで一日か、ネ口///を  
一日じゅつ装着かどつちが「ネ口///でーー」力強い返事をありが  
と」

お仕置き決定！

朝

「フヒヒ~~~~似合つてんぞ刹那~~~~~

マジドネ口///付けてやんの~~~~~みなみに色は黒だよ

「うつ…………とにかく早く学校に行って帰つてきましょう～～

／＼

## 学校（一時間目）

「…………刹那さん、装飾品は」

ネギ君、いい間だった！

刹那はホントに授業中もネーム//付けてるwww

「…………秋さんの指示です」

刹那がそう言つてまるで何もなかつたよつて授業がまた始まった

「…………ちうたん、何で皆俺が刹那にネーム//付けさせてる事が当たり前みたいに授業に戻つてんの」

ちなみにちうたん復活

「このクラスはお前の名前が出たら学校にテロリストが来ても平然としているやうになつちましたんだよ」

…………

「…………俺つて凄い「違うよー普段のお前に驚かせられすぎて、もうそれくらいじや驚かなくなつたんだよ！……・・・やつぱり俺

凄いじやん

皆の耐性が増えるのは先生とつともうれしいです

「これでもつと派手な事が出来るじゃないかー」

「…………無理」

あつちうたんがまた寝た、耐性はどう行った？

### 体育の授業

原作どうりババアが先にコートに居て何故か対決する事に

「……刹那、何でドッジボールで対決する事になつてんの？馬鹿なの？うちのクラス、あつ大河内は別で皆馬鹿なの？」

「……なんでそこで大河内さんは抜くんですか」

何当たり前の事を、お前らと大河内をでは明らかに違うだろ？胸の差でーーーーー今俺上手い事言つてなかつた？

「とにかく、大河内がボール当たられるような事があつたらあのババア共の腕を折るくらいの事はしないとな」

そつと腕を折る準備運動をし始めた

「……勝つ為の準備運動をしてください」

## 試合開始

•  
•  
•  
•  
•  
•  
•  
•  
•

・・・・ヘタケソ

開始と同時に当たられました、だつて人数多くて逃げられないんだもん

その後ネギ君が原作の用にババア共を脱がして勝利した

・・・ヘタクソ」

「黙れ、ネコ!!!!野郎が」

## 10話 テストwww（前書き）

お久しぶりです！

なかなか更新出来なくてサーセン

## 10話 テストwww

どうも、最近エヴァンゲリヲン新劇場版を見てちょっと感動した秋です

事件です、ネギ君が試験内容が発表されました・・・・・・・・

事件じゃないな

「はあ）・・・・だる」

先生つて以外にも大変なんですね、テストの問題とか作らないといけないし

「・・・・・・刹那は馬鹿だし」

「何でいきなり私を出すんですか」

だってホントに馬鹿なんだもん、お前はあれか？ツツコミしか悩がないのか？新ハカ！

「・・・・馬鹿・・・・」

「・・・・心が痛いです（泣）」

しかし原作ではバカレンジャーとネギ君が図書館に行くんだったよな・・・・

「・・・・大河内行かないなら俺も行かない」

ネギ君なんか知るか、こっちは大河内の好感度上げてエロシーンに行くつて夢があるんだから！

「しかし好感度を上げるにも何かイベントがなければ……」「ん~何も思い付かない、とりあえずテレビを付けてみる事に。ちなみに今は俺の部屋です

そしてテレビで流れていたのは

「次の二コースです、中学校の男子教師が女子中学生に暴行をはたらいたとの情報が入っています。何でも男子教師が女子中学生と二人つきりで勉強会をしている時に男子教師が「ああ~何だろ?・ムラムラしてきた」つと黙つて女子中学生に暴行をはたらいたもよつです

そう二コースでやつていた

「…………そつだ!これだ!…」

やつべ、ピーンと来た!!

「…………何ですか?お願いですから警察に厄介になるような事にならないでくださいよ」

お前は何かい?テレビでやつてた男子教師みたいな事をやると思つてんのか?

「違うよ、勉強会だよ!勉強会を開いてまあ大河内だけ誘つたら怪しまれるからクラスの皆を誘つて勉強会をしよつじやないか」

勉強会を開いて大河内に手取り足取り教えてテストでいい点を取れば好感度が上がるんじゃないのか？

「フヒヒ~~~~~あー！準備に取り掛かるぞー・刹那ー。」

「やっぱり私もやらないといけないんですね」

翌朝

朝になり、学校に行くと原作のように委員長を始め皆が慌てていた

「（ああ、ショータイムだ）皆さん、どうしましたか？」

「」でいつものようなテンションでいれば計画がだいなしになる可能性があるので、今は教師らしくして

「秋先生！-ネギ先生が！-ネギ先生が！」

ショタ野郎がうるさいけどあくまで冷静

「わかつていてます、でも大丈夫です。彼等は無事です。でも今は他にする事があるでしょう？」

俺がそういつつとクラスの中の誰かが

「やつだよー-ネギ先生達の無事がわかつたんだから今度は私達に出来ることをやつづよー。」

・・・・？、誰だっけ？まあそれより！

「やつです！」のままボーッとしていても意味がありません！しかもネギ君はこのクラスが最下位から脱出しないとクビになるそうじゃないですか！なら、勉強会をしましょうよ（笑顔）

皆で云われー俺の熱い下心！・・・・間違えた、俺の熱い想い！

「・・・やつだ！勉強をしようつー」

朝倉が『やつだ！京都に行つー』みたいな感じで言つた

「先生その言葉を待つてました！教習は用意してあります！それでは皆さん剎那について下わい！」

そして皆が剎那を先頭にぞぞぞぞと用意した教室に向かって行く

「・・・・待てよ、タツミー

タツミーが一人だけ自分の部屋に戻らうとしていた

「柄じゃないんでね」

待てよこの野郎、俺はクラスの平均点をあげて大河内の好感度アップさせなきやいけないのに『柄じゃないんでね』の一言でやめられるか

「・・・・揉むぞ！」の野郎

「やつてみるか？」

フツツと鼻で笑つた後にそう言いながら銃を構えた

「トレー・ス・オン 投影開始・・・・・ やつてやるよ」

俺は今は刹那が使つてゐる『夕凪』を投影した

「・・・・・・・・・・

俺とタツミーの睨み合いが始まった

「・・・・・・・・

タツミーが静かに右に動いた時に俺は動いた

「行くぞ！」「何が行くぞーだ」あびしー！

いきなりちうたんが後ろから蹴つてきた

「何すんだよー！つてタツミー逃げんなーハー・・・・タツミーが逃げたじやんか、ちうたん」

「だから『ちうたん』つて言つなーあとお前なんで自分の生徒と胸揉むためにガチバトルしようとしてんだよー！」

何を言つてんだ！

「タツミーの胸はガチバトルしても揉む価値はあるー！」

俺がそう言つたあと、ちつたんが部屋に帰らうとしたけど『今、部屋に戻つたら明日からクラスはちつたんの噂でもちつきりになるなあ～』つと独り言、あくまで！独り言を言つたら俺が用意した部屋に素直に行つてくれた

「・・・・教師つて素晴らしい」

### 秋が用意した教室

教室に来ると皆、真面目勉強してる・・・・真面目・・・・勉強・・・

「・・・・刹那こつち来い」

俺は真面目に勉強してる刹那を引つ剥つて教室の隅に連れてきた

「おい、何で皆真面目に勉強してんだよ」

「いや、秋さんがネギ先生のために頑張りうみたいな事を言つたから皆さん真面目に頑張つてるんじゃないですか」

だからつて皆が皆、真面目に勉強すんなよ。俺が付け入る隙がないじゃん。大河内も真面目に勉強してるし

「・・・・あつ、委員長。ここわかんないんだけど」

大河内は俺じゃなくて委員長に勉強の事聞いてるし

「…………ん？…………おい！お前…………おい！」

ちうたんが誰かを呼んでるみたいだ

「…………秋先生」

「なんだい、ちうたん」

いや、別に最初はめんどくさいから無視してただけで。別に！先生  
って言われて嬉しいかったからつい返事をしてしまった訳じゃないよ

「わかんないだけど」

そう言って数学のプリントを俺に見せてきた

「…………×…………a…………アレだ……委員長に教え  
てもうえ」

いや、けしてわからない訳じゃないよ？たまにあるでしょ？小学生  
の漢字がわからない訳じゃないけど、どう忘れしたみたいな

「お前マジで教師かよ」

そう俺を罵倒して委員長の元に行つた

「大卒くらいの学力があるんじゃ？」

あくまで俺の顔を見ないで言つてきた。まるで『別に貴方に言つて

るんじゃありませんよ』って言つてゐみたいだ・・・・・・・・・腹立つ

「ただのどきれだ、あとこいつち見て言え」

俺は刹那の頬つぺたを掴んでこっちに向けた

「ふみません・・・・・れも、プツ・・・因数分解がわかんないなんイタタタタ!!『めんなさい!』『めんなさい!』」

腹立つ、マジ腹立つ・・・・・・・・・殺るか

「・・・・何がいい?チクBにピアスかスカートで一日中逆立ちか

「えー?その一択ですか!?・・・・・別の選択は?」

何言つちやつてんだろ?ねえ、この馬鹿は

「あるわけないじゃん、『主人様を馬鹿にした罪は重いんだよ

「・・・なら・・・いや、でも・・・・・スカートで

なんだい、素直じゃないか

「まあとにかくやるぞ・・・・・・・・・とか暇だな

皆さん真面目に頑張つてるし、問題がわからない人は委員長か超とか頭のいい人に聞くから誰も俺に聞いてこない

「・・・・刹那、お前何か俺に質問してみる」

誰でもいいから俺に質問して！

「えー？ ・・・・ どんな人がタイプですか？」

そんな質問を期待してんじゃないんだよ！

「・・・・お前と体の作りが真逆の人」

「私じゃ駄目って事ですか」

お決まりの服従ポーズをとつた刹那

「・・・・はあー・・・飽きた・・・帰つ」

それから俺はテストの田までギャルゲーをしまくっていました

11話 山3姉妹www(前書き)

オリキャラですが何かwww

突然ですが、俺は教師です。まあ今までの話を読んでいる読者の皆さんにはわかつていただいてると思いますが

何故こんな事を言つたかと言つと。2・B以外の場所でも授業をします。そして今、現在進行中でやつてます

「・・・・あつちなみにして下さい」

でも教室にいます。何故授業をしないんだ、だつて?めんどくさいからwww

「・・・・//サカは//サカは・・・・フヒヒwww」

ちなみに今は暇だから』とある魔術の禁書目録』を読んでます

「先生…・・・自習でやつてた漢字がノート全部に書き終わりました!」

この俺の事を先生と書いてくれる数少ない生徒の山本三春やまやまとひるだ。

つかよくなつて勉強なんかできるな

「ああ~、やつぱり見なきやいけないのか?しかたない、見るか」

「はーー・ビリゼー!」

山本が頭をきつちつ50。に曲げながらノートを渡した

「・・・・・山本、何で『好き』と『愛してる』しか書いてないんだよ。よく同じ文字ばっかりでノート全部埋められたな?あと中学生の勉強をしろ、好きも愛してるも小学生の漢字だ馬鹿」

ノートを山本の頭に投げ返してからまたとある魔術の小説を読んだ

### Side 山本

先生に私の思いが書いてあるノートを思いつきり投げ返された

「うう、これで何回田の失敗だ?」

トボトボと自分の席に帰りながらそんな事を言つた

【多分、13回田だつたと思つ】

この子は山中潤なかやま じゅんで私の親友の一人、潤の特徴はカンペで私達と話す事です。話せない訳じゃないけど無口キャラに憧れてカンペを使つて喋ります。馬鹿な子です

「結構多いよね?じゃなかつた!あんたホントに馬鹿じゃないの!?

この子は山内眞やまうち まことでこの子も私の親友です。特徴はシンデレラに憧れて喋り方をそれっぽくしてるとこです。ホントは凄くいい子です、愛すべき馬鹿な子です

そして私達はほとんど一緒にいるから先生に『お前らって苗字に山

つて入つてゐるな、だからあだ名は山3姉妹な WWW と秋先生に言われました。気に入つてます//

「潤ちゃん！ 瞳ちゃん！ どうしたらいいのかな！？」

答えて！私の親友達！

【あ・て・あ・げ】

「ん、わかんないかあ、あつ！ 先生みたいに言つたらチクソウ！ か！」

皆もわかんないかあ、あつ！ 先生みたいに言つたらチクソウ！ か！

【そつだ、とりあえず秋さんと食事してみたら？】

さすが潤ちゃん！ いつてくるぜ

「・・・・・・・」

「どうしたのよー！」

いや、瞳ちゃん

「・・・・・ どう先生を誘つていいのかわかんない、一緒に来て（泣）」

一人じや淋しい三春です（泣）

「おーり、早く逆立ちせんか」

「待つて下さい！せめてスパツツを！てかスパツツかえしてください！」

今、この前やり忘れてたスカートで逆立ちをつ・Bの教室前の廊下でやらせようとしてます

「やだ、というかお前。あの二択ですぐにスカートで逆立ちを選んだのは『スパツツ履いてれば大丈夫だな』とか思つて選んだら。あとスパツツ全部捨てちゃつた」

だから刹那が起きる前に刹那のスパツツを全部捨てました

「なつ！？貴方それでも教師ですか！？！」

「だから！教師である前にブルジョアです！ブルジョアである前にお前の『』主人様です！！」

ナメンなこの野郎

「うう～・・・見ないでくださいね／＼」

大丈夫、お前のパンツに興味はないがお前が誰かにパンツを見られて恥ずかしがってる顔には興味あるが

「フヒヒヒマジでやつた」

刹那逆立ち中www

「先生！…今、大丈夫ですか！」

ん？階段の方から山3姉妹が来た

「別に大丈夫だけど、何？」

ちなみに刹那は俺の横で逆立ち中です、山3姉妹は気にならないのか？

「えっと…あの…駄目だ…」

そう言つて山中に抱き付いた山本

【秋さんは明日のお昼空いてますか？】

そう書いたカンペを山内が俺に見せた

「そうです…先生は明日のお昼は予定が…？」

山本復活！

「ん~、別にない」

「じゃあお昼を一緒に…お昼と一緒にしてあげてもいいんだからね！」

どうも山内の喋り方は俺に好意があるんじゃないかと思つてしまつ  
俺は重傷患者

「べつ別にいいけど……別に暇なだけだからなー。お前が好きでお皿を一緒にするんじゃないからなー。」

そしてノリで俺もシンクトレーなる俺はホントに末期だと思つ

「あつがとうござまわーー。じゃあ明日迎えに来てますー。」

そして山の姉妹は帰つて行つた

「…………ねモテになる事で」

逆立ち中の刹那が少し刺のある言ひ方で言つてきた

「当たり前だ、何たつて俺はブルジョアだからなー。」

「…………」

俺がそつまつと逆立ちしながら自分の部屋に刹那が帰りだした

「刹那…………今のお前…………かなりおもしろい~~~~~」

逆立ちしながら帰る女子中学生、都市伝説並だぜ

とりあえず俺も今日は帰る事に

「先生！たまご焼きをどうぞ！…」

「アム・・・アム・・アムロ・・・うん、美味しい！」

はい、昨日の約束どおりに学食に来ています。あと何でも山本がお弁当を作つて来てくれてます。美味しいです

「何処かの半でこと違つて」

何故か俺の右隣の席をキープしている刹那に向けて言つた

「うーたつ確かに料理はできませが、秋さんに対する思いは負けません！」

そして左隣に居る山本に殺氣を送る刹那

「フフッ、何もわかつてませんね。愛ーがあれば何だつて出来るんですけど、現に私は昨日の夜まで料理はできませんでした」

さすが馬鹿だ、馬鹿は偉大だな。何でも出来る……馬鹿だけど

【あれは酷い・・・うん、酷かつた】

そして右前に居る山中が昨日の惨劇をカソペで語つてる

「……それはあれですか？私より貴女のほうが優れています？」

「いや、そこまではいいましょん……いいませんが

馬鹿が悪女ぶるから噛むんだよ

「…………秋さん！私この人が嫌いです！－」

そんな涙田で訴えられても

「でも俺は好きだぞ？」

俺がそう言つと山本は信じられないくらい赤くなり、刹那は死人みたいに顔が青くなつた・・・・俺が黄色になれば信号だな（笑）

「え？・・・・え？あの・・・・え？」

刹那の目からボロボロと涙が流れてる

「・・・・・ハツ！－せせつ先生！／／／ホントですか！」

こつちは刹那が見えないようでテンションが上がつてゐ、山内と山中は刹那と山本を交合に見てかなり混乱してゐ

「ああ、お前おもしろいし。見てて飽きないwww」

「そうですか／／／つで、式はいつにしましょうか？キヤ／／三春、まだ式は早いよ／／／／

山本が馬鹿になつて行く・・・・前からか、てか何だよ式つて？

「・・・・秋君・・秋君は教師やる？・・・そんなんアカンよ・・・  
やつや！P-T-Aに訴えるで！－」

刹那が俺を脅すとは、てかそろそろ涙を止める

「なら俺は『くたばれP.T.A』をP.T.Aの前で歌つてやるよ（笑）」

俺結構、あの曲好きだし。

「あとわざから何！？式とか訴えるとか！俺何かした！？

そう言つたら此処に居るみんながビックリマン……ビックリな表示を

「なつ何つて、秋さんが三春ちゃんに『好きだ』って言つたじゃないですか」

山内がシンデレ言葉を忘れてそう言つたけど

「いや、それは生徒としてな？あと俺にはいろいろと立てないといけないフラグもあるし。第一に！俺は大河内みたいな人が好きなの、馬鹿もドMもおびじやあります」

それを聞いて安心？した刹那と放心状態になつた山本が服従のポーズ

「そつそつでしたね……秋さんは大河内さんみたいな人が好きなんでしたよね」

「…………乙女心を……弄ばれた……」

なんだかんだでこの一人は意氣が合ひつと思つ

「じゃあ、面倒臭い事になつたから帰る」

「あつ・・・・秋さんが帰るなら私も帰ります・・・山本さんでした  
か?・・・」これからも一緒にがんばりましょう

とつあべず部屋に歸つて恋姫十無双の無印やるべ

Side 山本

「これからも一緒にがんばりましょう」

たしか桜咲さん？だと思つけど、そんな応援メッセージを残して先生と何処に行つた

— 1 —

— 1 —

〔…………力ギヤー（^ ^）…………〕めん

・・・私達の中で一人を除いて微妙な空氣が流れる

「…黒鹿はしない」で言われたやつた…

三春ちゃん……とりあえずこれで済まして

熙ちゃん、何を言つて……なんだろ。田から涙あつ間違えた、田から汗が

「ありがとう・・・・・といひで大河内さんつて誰?」

知らない人に私はフ<sup>ラ</sup>れたと思つとすよつと悲しいけどその人がどんな人か聞いてみたい

【水泳部のエース・・・三春は・・・クラスのエース（馬鹿の）】

・・・・・ そう、あつちは水泳部のエースといつ輝かし称号を持つ女。私は馬鹿のエースという不名誉な称号・・・・・ハハッ勝てる気がしない。私つて気がつかないうちに汚されてたんだね

【・・・・・ 一つだけ、一つだけ逆転する方法が】

！――？

「潤ちゃんー教えて！エースと言つたの称号に犯された私がどうすれば水泳部のエースに逆転が――」

【簡単よ・・・・・三春、脱ぎなさい。そして田指すのよ！水泳部のエースを――】

そうかーその手が！

「三春・・・・・脱ぎます――」

三春はやつます！

「（三春ちゃん、騙されてるよ。潤ちゃんに騙されてる・・・・・騙されてるんだからね――）」

「あつ秋さん／＼／どうですか？／＼／」

部屋についてすぐに刹那が風呂場に行つたと思ったら刹那がスク水を着て出てきた

「・・・あつ！ そう言えば明日大河内の居る水泳部がどうかと練習試合するんだつた！ 必ず行かねば、早く寝よ」

遅刻したらいやだからね

「あの・・・秋さん?似合いませんか?」

h  
?

「ああ、似合つてゐるぞ」

旧スクな所がまた・・・・あれ、何でお前それを持つてる

「何でお前がそれを？」

「え？・・・・有つたから・・・・いつかなあ～って さつ！今日

そしてスク水のままでベットに潜り込んだ刹那

「……………しかたない、今日は寝よつ

何で俺がひそかに持つてた旧スク水を刹那が持つてたかつて事より、  
今は明日に備えて寝よ

「…………でも罪はあたえます」

「…………（泣）」

反省も後悔もしていない！！  
だって趣味だもの！

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n8016m/>

---

ネギま！に転生？ワロスwww

2010年12月12日10時43分発行